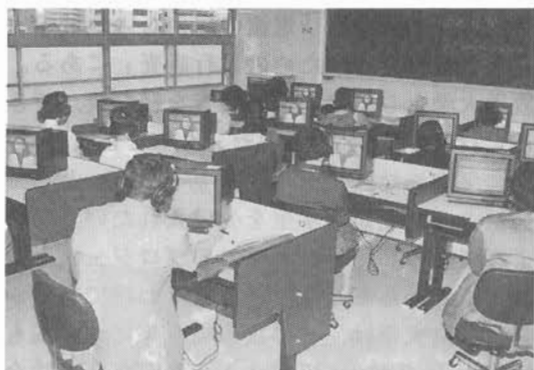


「放送大学広島地区ビデオ学習センター」について

総合科学部 稲田 勝彦

本年4月、総合科学部4階407号教室に、「放送大学広島地区ビデオ学習センター」が開設された。このセンターについては、新聞やテレビ等で報道もされたので、耳にされた方も多いと思うが、その目的や性格が学内でひとつとよく理解されていないように思われるので、その開設に関係した広島大学側の一人として、このセンターの趣旨・概要等について少し述べてみたい。



「ビデオ学習センター」設置の趣旨と経過
特殊法人放送学園・放送大学（甲田和衛学長、千葉市）は、昭和58年に設置され、60年度から放送電波の届く関東地域において学生受け入れを開始し、今春、544名の第1期「教養学士」を送り出した大学である。

また、放送教育開発センター（加藤秀俊所長、千葉市）は、放送を利用して行う教育の内容、方法について理論的および実践的な研究開発を行う大学共同利用機関である。

この放送大学と放送教育開発センターが、放送大学の電波の届かない地域において、放送網が全国的に整備されるまでの間、国立大

学等の協力を得て、ビデオ・オーディオテープを利用した放送大学教育の実施を目指し、「ビデオ学習センター」の設置準備を行うこととして、所要の経費を要求し、昭和63年度予算に計上された。

一方、広島大学は、その過程で紆余曲折はあったものの、これに協力する国立大学となり、放送大学が教養学部からなる大学であるということもあって、総合科学部がその試行部局となった。このプロジェクトは放送大学・放送教育開発センター・広島大学の三者共同プロジェクトなのである。

「ビデオ学習センター」の概要

このプロジェクトの概要・年次計画は、当初、次のようなものであった。

昭和63年度——必要な機器の導入、調査等の方法の一部検討

昭和64年度——広島大学学生等を対象とするモニター調査、公開講座の実施等

昭和65年度——学生の受け入れ（科目・選科履修生）

昭和66年度以降——全科履修生の受け入れ（ただし、学生の受け入れについては、64年度の調査をふまえて検討する予定）

この年次計画に従って、昭和63年度末までに、ビデオコーダー、モニターテレビ、テープレコーダーを組み込んだ装置（視聴用ブース）15台、ビデオ・オーディオテープ等の放送教材295科目各2セットおよび印刷教材が、改装なった総合科学部407号教室に設置され、同時に放送大学の職員4名が配置されたのである。

「ビデオ学習センター」における学習形態
平成元年度は、上述の年次計画の2年目にあたり、前期・後期にわけて、モニター調査等を行う年である。

視聴協力者（モニター）については、当初、「広島大学学生等を対象とする」とあったが、これは実質的には「本学の学生を含めた一般市民を対象とする」ということになった。

また、開講する科目についても、現在放送大学で開講されている295科目のすべてを開講するが、モニター調査の対象とする科目は、前期においては①作歌・作句②文化の形成と普及③日本経済と産業と企業④日本の自然⑤英語Ⅳ⑥食物総論⑦学習と指導の7科目に限定することにした。



更に、科目ごとに教員による直接（対面）学習指導・相談をおおよそ3週に1回の割合で、1期間に計5回行うこととした。

センターは、月曜日から土曜日まで、休日を除く毎日、10時～19時（13時～14時は閉所）の間開かれ、モニターは任意の曜日・時間にセンターに出向いて聴講（自由聴講）するか、あらかじめ決められた曜日・時間に聴講（定時聴講）することになっている。

モニターは、センターで1回45分の放送教材を15回（週）にわたって視聴し、貸与された印刷教材（テキスト）により、予習・復習をする。モニターは、更に、5回の学習相談に出席し、種々の調査に協力して聴講を完了すれば、修了証が与えられることになっている。

以上のような具体的学習方法を定め、諸準備を整えた上で、本年3月中に、各科目30名の定員でモニターを募集したところ、最終的には男性126人、女性249人、計375人のモニターが得られた。4月8日（土）の説明会を経て、4月17日（月）から「授業」が始まっている。

今年度は、8月5日（土）に前期の授業を終了し、8～9月に後期のモニターを新たに募集して、新しい科目で10月1日から後期の授業に入ることになっている。なお、今年度中には、視聴用ブースが更に10台増設される予定である。

「ビデオ学習センター」の今後

「放送大学広島地区ビデオ学習センター」は、現時点では、正確には「放送大学広島地区ビデオ学習センター準備室」であり、その目的はあくまでも「電波の届かない地域で放送大学教育を行うための試行調査」にある。放送大学としては、試行調査を経た後、できるだけ早い時期に、このセンターを正式の「放送大学広島地区ビデオ学習センター」として発足させ、正規の学生を受け入れたい意向のようである。そうなればこのプロジェクトは試行調査から新たな段階に入るわけであるから、広島大学は、その設置場所等についても、放送大学と改めて協議する必要があると総合科学部としては考えている。

というのも、放送衛星の利用により、放送大学の教育が全国的に行われるようになった時には、このセンターがそのまま「放送大学広島地区学習センター」として恒常的に存続することも考えられるからである。将来、もし広島大学関連の施設の一部に、「学習センター」が置かれた場合、たとえば、本学の「大学開放」や「生涯教育」の構想もまた違ったものになることも考えられよう。

「ビデオ学習センター」と本学の教育

「ビデオ学習センター」が放送大学・放送教育開発センター・広島大学三者による共同